

## 令和2年度生坂村社会就労センター運営委員会議事録要旨

1. 日 時 令和3年1月18日 午後3時00分から
2. 場 所 生坂村 村民会館講堂
3. 出席者 会 長： 山本 優  
委 員： 望月典子、市川寿明、太田 譲、藤澤澄廣、奥野末枝子、山口利夫  
村 長： 藤澤泰彦  
説明者： 山崎 慈（所長）、松沢昌志(住民課長)

### 4. 協議事項

#### (1) 令和2年度社会就労センターの運営状況について

##### 説明事項

・現状の利用者は、施設授産定員20名に対し、利用人数は16名。内認定者の利用は9名。家庭授産2名は内職作業をしている。下請け作業が減り、収入の見込み額も減少見込み。

##### 委員からの質問意見

Q：電熱産業(株)との取引額が下がっている理由は。昨年度程の売り上げは見込めるのか。

A：寒くないと仕事がこない。先月辺りから凍結防止帯の仕事は増えているが、電熱産業(株)もそれほど忙しくない。昨年度程の売り上げは厳しい。

Q：コロナ禍の影響はないのか。

A：コロナ禍ということはないと思うが、全体的に少なくなっている。4月から7月頃までは仕事がなかった。

Q：(株)まるたかの仕事はどうか。

A：緊急事態宣言時には仕事が止まったが、解除されて増えた。GoToトラベルが始まった時に一気に増えたが、ここにきて新型コロナウイルス感染症の影響で減っている。冬場は仕事が少く1月から2月にかけてはいつも仕事がない。春の大型連休に向けて増えてくるが、近隣の就労センターで仕事を分けている状態。

#### (2) 今後の運営について

##### 説明事項

・下請け作業、独自製品の販売については、本年度の実績と同程度を予定している。通所者の高齢化が進んでおり、作業の効率が下がっている。新規の入所者を探し、いかに来てもらうのが課題。

##### 委員からの質問意見

Q：新型コロナウイルスの関係で、施設製品への販売に変えていくことも必要だと思うが。

A：中で作るのは厳しい状況で、通所の方が一から作りだすのはなかなか難しい。通所者ができる仕事は限られており、製造段階の中の一部の作業しかできない。施設のスペースも限られており、全部を揃えてそれを提供することは、今の指導員では難しい。新しい人が入ってこないで次第に高齢化し、手も動かなくなってきているので、5年ほど前には普通にできた作業も今は忙しい。新しい人が来ないと今の作業もいっぱいなので、そこまで手がまわらない。竹製品の試作もおこなったが難しかった。

Q：業者を増やす方策は。

A：千秋段ボールが仕事を止め協和段ボールに仕事を移したということで、営業の方から新しい仕事の紹介があり練習を重ね検討したが、高度な作業精度を求められるなどで断念した。現状ではピーク時の作業は一杯で人があまらない。仕事が少ない時は時々なので、そこを埋めるような仕事でなければいけない。

Q：(株)ASTEQ安曇野が増えた理由は。

A：昨年からはじめた仕事で、昨年度は作業量が少なかった。台紙折りの仕事で、単価的には非常に安いですが、これしかできない通所者もいる。

Q：課題で高齢化により人員確保とあるが、今までは通所者はいたと思うが。現在入ってこないという理由はあるのか。

A：健康福祉課から紹介で新しい方が様子を見に来ていたが、来られなくなった。室内で仕事できる人、室外しか仕事ができない人などがおり、前任者が外の仕事で人と接することが少なければ引き籠りの方が通所できるのではないかと考え、通所者で除草作業をやってみたが、作業に危険が伴うことが解ったので中止した。

Q：今現在仕事はいきわたっているのか。

A：仕事は回っている。高齢者が多いので急に来ないこともあり、仕事を断ると迷惑がかかる。

Q：人数を確保することも大事だと思うが。

A：通所者が補助金の基礎となるので、来てもらうことは大事。教育委員会、健康福祉課と連携をとって来そうな人には、声を掛けてもらっているが、まだ通所には結びつかない。生活保護の方からも連絡はない。

Q：募集の仕方等をこまめにして、個々にあたるようにした方がいい。みんなで協力してやっていけないといけないと思う。

A：区長さんに声掛けをお願いしたり、個別に連絡もしているが通所者は増えていない。範囲を広げて募集していく。